



滑川市の学力向上の取組について

令和4年11月16日 朝来市議会行政視察資料
滑川市教育委員会



滑川市の概要 ①立地・地勢

滑川市は、富山県中央部のやや東北に位置しており、面積は54.62平方キロメートルです。

北西は、「天然の生簀(いけす)」と称される日本国内随一の魚介の宝庫で、「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟している富山湾に面しています。

東には劔岳を源流とする早月川が流れています。

市域は、県南東部に広がる3,000メートル級の「北アルプス」立山連峰を背景にして、早月川と上市川に挟まれた扇状地の上に形成されています。

滑川市を含む富山県東部と富山湾は、多彩な地質と地形を有していることなどから、「立山黒部ジオパーク」として認定されています。



滑川市の概要 ②沿革

平安時代から室町時代にかけて、現在の滑川市域を中心とする地域は京都・祇園社（ぎおんしゃ）の荘園「堀江荘（ほりえのしょう）」で、穀倉地帯として開発されました。

戦国時代を経て、豊臣秀吉の天下統一後、現在の滑川市域を含む新川郡などが、戦国大名・前田利家（まえだ・としいえ）の領地となりました。特に沿岸の旧町部は北陸街道沿いにあり、江戸時代には加賀藩の宿場町として栄えました。

明治時代から大正時代にかけては郡役所が置かれ、**中新川郡の政治・経済の中心地**として発展しました。

1953年11月1日、滑川町を含む1町6村が合併し、翌1954年3月1日に市制を施行。**現在人口約3万3千人**を擁する都市に発展しています。



③産業・経済

現在は、古くから盛んな農業や**ホタルイカ漁**に代表される漁業に加え、**医薬品**や建材など幅広い品目で製造業も発展。数多くの企業が本社や製造拠点を置き、**1人当たりの工業製品出荷額は富山県内1位**の844万円（※平成26年工業統計調査の確定値から算出）と、富山県内随一の「**ものづくりのまち**」となっています。



④ 民族・文化

滑川市には古くから受け継がれてきた民俗行事や文化が残っています。
滑川沖の海中にあるとされる龍宮(りゅうぐう)城伝説にちなんだ「ふるさと龍宮まつり」が毎年7月中旬に行われ、住民が、藩政時代から受け継がれてきたとされる民謡「新川古代神(にいかわこだいじん)」を踊り流します。



④ 民族・文化

毎年7月31日には、中川原の海岸(通称・和田の浜)で厄除けや無病息災などを祈願する火祭り「滑川のネブタ流し」(国指定重要無形民俗文化財)が行われます。



滑川には、俳人・松尾芭蕉が立ち寄ったとも伝わっており、藩政時代から現代に至るまで、俳句が盛んです。



⑤観光・特産

富山湾のうち、滑川市沿岸を中心とする一帯は「ホタルイカ群遊海面」として国の特別天然記念物に指定されており、毎年3月から5月の未明に実施される「**ほたるいか海上観光**」では、網にかかって青白く光るたくさんのホタルイカを観光遊覧船から眺めることができます。



⑤観光・特産

ホタルイカをテーマにした世界で唯一の施設「**ほたるいかミュージアム**」があり、漁期の間は生きたホタルイカが発光する様子を施設内で間近に観察することができます。



海洋深層水を使ったタラソセラピー（海洋療法）を体験できる「**タラソピア**」や、海洋深層水を手軽に手に入れられる分水施設「**アクアポケット**」があります。市内では海洋深層水を使った製塩も行われており、ミネラル豊富な海洋深層水の塩を手軽に手に入れることができます。



⑥市イメージアップキャラクター

ホタルイカをモチーフにした「キラリン」「ピッカ」の姉弟のキャラクターがおり、市役所が発行するさまざまな媒体のほか、滑川市関係の商品にデザインされています。また、市内外の数多くのイベントにも登場しています。

滑川市イメージアップキャラクター

キラリン

ピッカ



滑川市の小・中学校

小学校が7校、中学校が2校あります。

小学校名	児童数	中学校名	生徒数
寺家小学校	245人	滑川中学校	511人
田中小学校	220人	早月中学校	309人
東部小学校	340人		
北加積小学校	181人		
東加積小学校	51人		
南部小学校	139人		
西部小学校	431人		



本日お話しする内容

- 滑川市の教育について
- 科学・理数・ものづくり教育の充実について
- 「科学の時間」について
- 今年度の学力向上の取組について



滑川市の教育

滑川市教育大綱

三大目標

- ◎健全な心を支えるたくましい体
- ◎自然と芸術に親しむ豊かな心
- ◎人間の生き方を考える優れた知性



滑川市の教育

基本方針

- 1 ふるさと滑川を支える人づくり
- 2 心と体の健やかで元気な社会づくり
- 3 結婚、妊娠、出産、子育て、教育の切れ目のない支援
- 4 図書、情報等を通じた人がいきいきと交流するまちづくり
- 5 防災と危機管理による安全な教育社会環境



ふるさと滑川を支える人づくり

市民一人当たりの製造品出荷額

県内第1位

ものづくりの町



ものづくりのまち滑川の基礎となる人材の育成

科学・理数・ものづくり教育の推進
(科学の時間)

科学・理数・ものづくり教育の充実(H27～H29)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
理数教育推進(検討)委員会	滑川市理数教育推進検討委員会 発足・開催	滑川市理数教育推進検討委員会 開催	滑川市理数教育推進委員会開催
推進校/特例校	理数教育推進校(3小学校)	理数教育推進校(3小学校) 教育課程特例校の申請	特例的な教育課程(小中一貫のカリキュラム)→全校で「科学の時間」を実施
教員等の配置	理科専科教員配置 観察実験アシスタント配置	理科専科教員配置 観察実験アシスタント配置	理科専科教員配置 観察実験アシスタント配置
備品拡充	理科、算数・数学備品の整備	理科、算数・数学備品の整備 ICT機器の整備	理科、算数・数学備品の充実 ICT機器の活用
外部との連携 (企業見学・出前授業)	滑川工場倶楽部との連携 北陸職業能力開発大学校との連携	滑川工場倶楽部との連携 富山機電工業会との連携 リアルサイエンスとの連携 北陸職業能力開発大学校との連携 県内外の講師による出前授業	滑川工場倶楽部との連携 富山機電工業会との連携 学びの創造塾との連携 北陸職業能力開発大学校との連携 県内外の講師による出前授業
教員研修		ICT活用研修	理科教材活用研修、「科学の時間」 研修会、ICT活用研修
その他	テレビ寺子屋番組作成	テレビ寺子屋番組作成 茂木健一郎氏の講演会	テレビ寺子屋番組作成

科学・理数・ものづくり教育の充実(H30～R2)

	平成30年度	平成31年度	令和2年度
理数教育推進(検討)委員会	滑川市理数教育推進委員会開催 カリキュラム、教材検討、テレビ寺子屋 番組作成	滑川市理数教育推進協議会開催 カリキュラム、教材検討、テレビ寺子屋 番組作成、ICT活用推進部会	滑川市理数教育推進協議会開催 カリキュラム、教材検討、テレビ寺子屋 番組作成、ICT活用推進部会
推進校/特例校	H30スタンダード集作成 校種別共通学習単元指導計画作成	R元スタンダード集(H30の残り) 「科学の時間」アンケート(児童生徒用)	スタンダード集、校種別共通学習単元指 導計画の見直し 「科学の時間」アンケート(児童生徒用)
教員等の配置	理科専科教員、小中一貫コーデ、観察 実験アシスタント配置、PCコーデ小巡回	理科専科教員、小中一貫コーデ、観察 実験アシスタント配置、PCコーデ小巡回	理科専科教員、小中一貫コーデ、観察 実験アシスタント配置、PCコーデ小巡回
備品拡充	特別支援学級におけるICT教育の充実 ICT教育の活用 ICT教育備品の充実	特別支援学級におけるICT教育の充実 ICT教育、PCコーデの活用 ICT教育備品の充実 プログラミング教育用教材の購入、活用	特別支援学級におけるICT教育の充実 ICT教育、PCコーデの活用 ICT教育備品の充実 実験教材の購入、活用
外部との連携 (企業見学・出前授業)	滑川工場倶楽部との連携 富山機電工業会との連携 北陸職業能力開発大学校との連携 県内外の講師による出前授業 水産試験場見学・クルージング ワンダー・ラボ「出前実験教室」 プログラミング学習(PCコーデ)	滑川工場倶楽部との連携 富山機電工業会との連携 北陸職業能力開発大学校との連携 県内外の講師による出前授業 水産試験場見学・クルージング ワンダー・ラボ「出前実験教室」 プログラミング学習(PCコーデ)	滑川工場倶楽部との連携 富山機電工業会との連携 北陸職業能力開発大学校との連携 県内外の講師による出前授業 水産試験場見学・クルージング ワンダー・ラボ「出前実験教室」 プログラミング学習(PCコーデ)
教員研修	理科教材活用研修、「科学の時間」研修 会、プログラミング教育研修会	理科教材活用研修、ICT活用研修、プ ログラミング教育研修会	理科教材活用研修、「科学の時間」研 修会、ICT活用研修、ICT活用研修会、プ ログラミング教育研修会
その他	テレビ寺子屋番組作成	テレビ寺子屋番組作成	テレビ寺子屋番組作成

科学・理数・ものづくり教育の充実(R3～現在)

	令和3年度	令和4年度	
理数教育推進(検討)委員会	滑川市理数教育推進協議会開催 カリキュラム、テレビ寺子屋番組作成 ICT活用推進協議会開催	滑川市理数教育推進協議会開催 カリキュラム	ICT活用推進協議会開催 活用推進委員会
推進校/特例校	スタンダード集、校種別共通学習単元指導計画の見直し 「科学の時間」アンケート(児童生徒用)	スタンダード集、校種別共通学習単元指導計画の見直し 「科学の時間」アンケート(児童生徒用)	情報モラルカリキュラム作成 デジタルドリルの選定
教員等の配置	理科専科教員、小中一貫コーデ、観察実験アシスタント配置、PCコーデ小巡回	理科専科教員、観察実験アシスタント配置	PCコーデ小巡回
備品拡充	特別支級学級におけるICT教育の充実 ICT教育、PCコーデの活用 ICTを活用した教育の充実 実験教材の購入、活用	実験教材の購入、活用	特別支級学級におけるICT教育の充実 ICT教育、PCコーデの活用 ICTを活用した教育の充実
外部との連携 (企業見学・出前授業)	滑川工場倶楽部との連携 富山機電工業会との連携 北陸職業能力開発大学校との連携 水産試験場見学・クルージング ワンダー・ラボ「出前実験教室」 プログラミング学習(PCコーデ)	滑川工場倶楽部との連携 富山機電工業会との連携 北陸職業能力開発大学校との連携 県内外の講師による出前授業 水産試験場見学・クルージング ワンダー・ラボ「出前実験教室」	プログラミング学習(PCコーデ)
教員研修	理科教材活用研修、「科学の時間」研修会、 オンライン教育研修会、教員向けICT活用 研修	理科教材活用研修、「科学の時間」研修会	教員向けICT活用研修
その他	テレビ寺子屋番組作成		令和のどやま型学方向上プログラム研修会

科学の時間の目的



- ① “ものづくり滑川”の将来を支える人材の育成
- ② 体験的活動等を重視した主体的、対話的な深い学びの展開
- ③ 豊かな自然を活用した学習によるふるさとを愛する心の育成
- ④ 食育や環境教育、プログラミング等の学習による自然愛護や生命尊重の心、情報化社会に生きる力の育成

特別な教育課程

◇ 小・中学校9年間の一貫した教育として実施

→設置者（滑川市）の判断で特別の教育課程として実施が可能

※ 学校教育法等の一部を改正する法律の施行（平成28年4月1日）による

◇ 小・中一貫教育のための組織

中学校区ごとの「小中一貫型の学校（併設型小・中学校）」として連携

滑川学園……滑川中、寺家小、田中小、南部小、西部小

早月学園……早月中、東部小、北加積小、東加積小

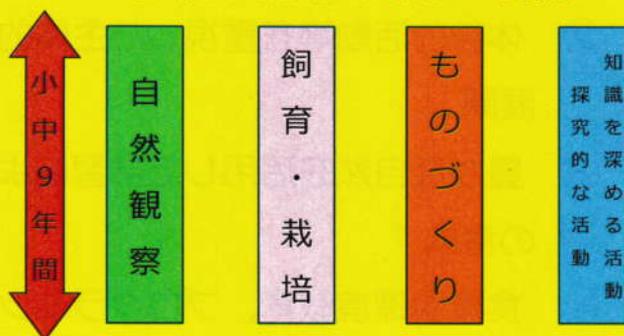
- ・各中学校長が学園長
 - ・学園内の学校合同による協議会
- 小中9年間の系統性を確保して教育課程を編成

小中一貫のカリキュラム

小・中9年間を貫く
「4つの柱」

4つの柱を包括する
地域や人からの
学び・支援

地域や人からの学び・支援



授業時数について

◇ 小中一貫教育として行う教科

新教科「**科学の時間**」を**小学1年から中学3年**で実施

<科学の時間の授業時数>

学 年	年間時数	「科学の時間」に移行する時間(※)					
		生 活	理 科	図 工	総 合	数 学	技・家
小学1～2年	5	▲3	—	▲2	—	—	—
小学3～6年	35	—	▲10	▲5	▲20	—	—
中学1～3年	35	—	▲10	—	▲10	▲10	▲5

(※) 授業時数を移行した教科の学習指導要領に定められている内容事項は、すべてその教科や特別の教育課程（科学の時間）において取り扱う。

「科学の時間」の学習内容

◇ 「科学の時間」で扱う内容

- ① 観察・実験・実習・ものづくり等の体験的な活動
- ② 問題解決的な学習、探究的な学習
- ③ 発展的な学習、知識を深める学習
- ④ 各教科の内容を合科的・横断的・総合的に扱う学習
- ⑤ 教科間で重複している内容をまとめて効果的に行う学習

※ 1単元または、1～数時間の授業単位で実施

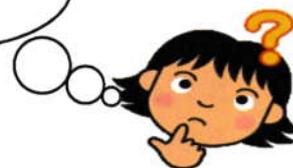


実施する上での留意点

◇ 「科学の時間」を正しく解釈し、計画する

- ① 複数の教科の授業時間数を移行しているが、学習指導要領に示されている内容はすべて履修しなければならない。
- ② これまで総合的な学習の時間で行ってきた取組を振り替えたり、それぞれの狙いを融合させた取組としたりする。
- ③ これまでも推進してきた科学・理数・ものづくり教育の内容を「科学の時間」としてカウントする。
- ④ 宿泊学習や修学旅行での自然体験活動やものづくり活動も体験を重視する「科学の時間」としてとらえる。
- ⑤ 各教科で学習する内容を、合科的・横断的・総合的に扱うことで主体的な学びや問題解決能力を養う。

科学の時間って具体的には
どんな勉強をするの？



科学の時間のよりどころは・・・

科学の時間単元指導計画

科学の時間スタンダード集

R3年度版
「科学の時間」における
校種別共通単元指導計画



R3年度版
「科学の時間」スタンダード集



滑川市理数教育推進協議会（カリキュラム部会）

「科学の時間」市内小学校での共通の活動内容

第1学年

ものづくり・おもちゃづくり・・・5h ※何を作るかは別に決める。
合計5h

第2学年

ものづくり・つくってあそぼう（こま）・・・5h
・つくってあそぼう（ゴム） ※動くおもちゃ
合計5h

第3学年

自然観察 ・自然観察・・・4h（2h+2h）
※春と秋に校庭や学校周辺の生き物を観察する
飼育・栽培・昆虫・・・5h
※モンシロチョウと自分の育てたい昆虫の飼育
ものづくり・おもちゃづくり（風・ゴム・磁石）・・・10h
※学習したことを生かしておもちゃを製作する
計19h
●自由裁量16h 合計35h

第3学年「科学の時間」年間指導計画 R4.1.18 (訂正)

月	単元名・題材名 学習内容・活動内容 関連する学習	時 数	活動の特徴	評価規準
4 1 3	身近な自然の観察 ※自然観察 ・校庭や学校周辺の生き物を観察する。 ○理科「しげんのかんさつ」 「実ができるころ」 ○道徳「森のいのち」自然愛護 ○総合「地域の自然」	4	自分たちの学校のまわりには、様々な生き物があることに気付かせ、身近な自然に親近感をもたせる。	【基・判・表】生き物の様子について差異点や共通点を基に詳しく調べたいことを考え、それがどのような様子をしているかを予想するとともに、詳しく調べられるかのように観察すればよいかを考え、自分なりの考えを表現している。 【態】春や秋の自然の様子に興味をもち、どんな生き物が見られるかを考え、進んで記録しようとしている。
6 5 9	「こん虫はかせになろう」 ※飼育・栽培 ※知識を深める活動・探究的な活動 ・校庭や行田公園等で見つけた前や幼虫の飼いや、成虫になるまで育てる。 ○理科「チョウを育てよう」 「こん虫を調べよう」 ○道徳「ヒキガエルとロバ」命の尊さ	5	理科で学習するモンシロチョウの他にトンボやバッタ等、自分の育てたい昆虫を飼育する。 ・昆虫の体のつくりや成長の変化の不思議さに興味をもち、図鑑等で調べ、発表する。	【理・技】調べた方法に則って、器具を正しく使いながら適切に飼育している。 【基・判・表】飼育・観察しているときに気付いた昆虫の不思議を調べ、文章や絵、写真を用いたりして、分かったことや考えたことを整理し表現している。 【態】幼虫の成長の変化や葉の食べ方等に興味をもち、愛情をもって進んで世話をしながらか観察しようとしている。 【態】野外にいる昆虫に興味をもち進んで体のつくりや成長の変化を観察し、調べようとしている。

小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
1 単元名・題材名 滑川市の地形について知ろう ～きらりん号に乗って観察しよう～						2 時数 3時間 自然観察		
3 学習・活動のねらい ・地面を流れる水や地面の様子に興味をもち、流れる水のはたらきについて進んで調べようとしている。 ・ふるさと滑川市の地形や、市の観光業で働く人々に興味をもち、意欲的に調べたり関わろうとしたりしている。 ・地面に水を流し、流れる水と地面の様子の変化を調べ、結果を記録している。								
4 学習・活動の内容 (1) 事前の準備物 ・ジオパーク副読本								
(2) 流れ 【事前学習】滑川市の地形 早月川扇状地について知ろう。(1時間) 【体験学習】キラりん号に乗船して、早月川扇状地の様子を観察しよう。(1時間) 海上から陸上の様子を観察する。早月川扇状地や勾配の様子を観察し、高低差を確かめる。 【事後学習】早月川に関する資料を集め、人々の努力や願いを考えよう。(1時間) ジオパーク副読本を利用して、早月川に関する資料を集め、調べる。								

自然観察

例えば・・・5年生 滑川市の地形について知ろう

◎事前学習(1時間)

「ジオパーク副読本」を活用し、滑川の大地が扇状地から成り立つことを学ぶ。

◎体験学習(キラリクルージング)(1時間)

扇状地から成り立つ滑川の地形を、海上から俯瞰的に捉える。(子供たちに解説できるように)
※ジオパーク協会に講師を依頼することもできる)



◎事後学習(1時間)

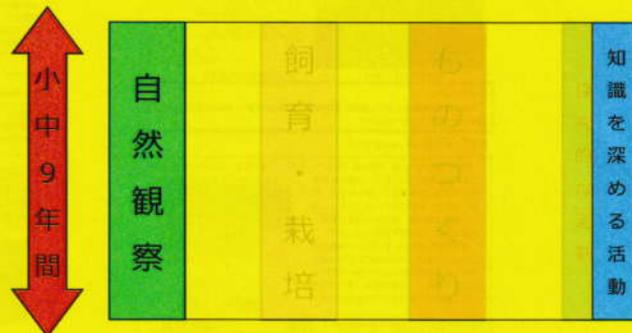
副読本も活用しながら、分かったことや気付いたことをまとめる。
興味のある児童は、自由研究の課題として取り組むこともできる。

小中一貫のカリキュラム

小・中9年間を貫く
「4つの柱」

4つの柱を包括する
地域や人からの
学び・支援

地域や人からの学び・支援



ジオパーク副読本を利用して、早月川に関する資料を集め、調べる。

5 授業の留意点、参考文献等

<参考文献>

- ・「なめりかわのジオパーク」(ジオパーク副読本)

<留意点>

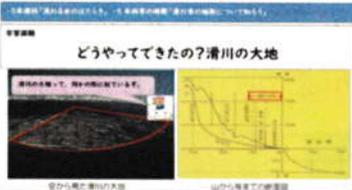
- ・「扇状地」については、中学校での学習内容である。実際に流水実験をしてみたり、図を用いて説明するなどの補足が必要である。
- ・キラリン号では、大きな揺れが予想され、当日詳しい説明ができないこともある。事前学習を行い、予め、海上から陸上を観察する観察の視点を与えておくことよい。
- ・「滑川市市民交流プラザ」の屋上(6階)展望塔からは、美しい弧を描いた扇状地が一望できる。近隣の学校は、ぜひ、活用するとよい。

6 授業者へのアドバイス

- ・理科「流れる水のはたらき」と関連付けて学習を進めるとよい。「浸食・運搬・堆積」の3つのはたらきをもとに考えると、早月川によって扇状地という地形ができたことへの理解の手助けとなる。
- ・急流な早月川に関する石碑や堤防、神社は、滑川市にたくさん存在する。「ジオパーク副読本」を利用することで、自分たちの身近な地域により目を向けることができる。当時の人々の努力を考えながら、学習を進めることができる。
- ・事前学習の際は、「ゲストティーチャー」を活用すると有効である。立山黒部ジオパーク協会の専門員やガイドと講師を講師として依頼できる(科学の時間出前授業バンク参照)。費用は5000円、交通費1000円である。直接、問い合わせてかまわない。※ほたるいかミュージアムの小林さんもガイドが可能である。

副読本:なめりかわのジオパークも併せて活用を

学習1 どうやってきたの?滑川の大地



考えてみよう

わたしたちの場所をよきから見て、扇の形をしています。では、どのようにして、このような扇状の大地ができたのでしょうか?

学習1 扇状地って、なんだろう?

扇状地の地形のことを、「扇状地(せんじょうち)」と言います。川が運んだ土砂が堆積してできた地形のことです。川の山麓から平野や丘陵に移る周辺に現れます。標高「せきす」の所に流れていることからこのように呼ばれます。扇状地の頂点を標高、扇頂を扇頂、中央部を扇心と言います。滑川市の扇状地は、新扇状地と旧扇状地に区分されます。中山間部に広がる扇状地は、大昔の早月川が流れて運んできた土砂でできたもの、新扇状地は、今の早月川の流れて運んできた土砂でできています。

もっと調べてみよう

扇状地の一部が川が運んできて扇状地の大地に...
扇状地が扇状地らしい地形になっている?

学習2 扇状地を作って、見てみよう

扇状地を実際に作ってみましょう。

- ① 用意するもの: フォム、土、トレイ(大きめのもの)
- ② トレイのほかに、粘土を作る。
- ③ 粘土を作った方のトレイの下に厚紙を敷く。
- ④ トレイを少しだけ動かす。
- ⑤ 土の山の上から、少しづつ土を流す。
- ⑥ 土が溜まると、地形が自然にできていきます。
- ⑦ 山の形がどう変わるか、砂がどのように流れるかを観察する。
- ⑧ 水を付けたら、流す人と協力して見よう。
- ⑨ 実験をした後は、手をよく洗おう。

学習3 扇状地を見に行ってみよう (科学の時間「滑川の地形について知ろう」)

海上から、扇状地を見に行ってみよう。

観光船クルージングで見る扇状地クルージングでは、扇山麓から山麓部や山頂(展望塔)まで見ることが出来ます。扇山麓から山麓部までの扇状地が広がること、ぜひ一度、海上から見てみましょう。

クルージング体験の見学ポイント

- ・海上から見た扇状地と扇山麓部の見学ポイント
- ・扇状地の頂点と扇心の見学ポイント
- ・扇山麓部から見た扇状地の見学ポイント

滑川市観光協会

住所: 滑川市中央4-1-2
電話番号: 076-476-4200
HP: <http://www.city.seki.lg.jp>
メール: info@city.seki.lg.jp
観光情報課 本館/本館 本館/本館
運営: 本館/本館 本館/本館

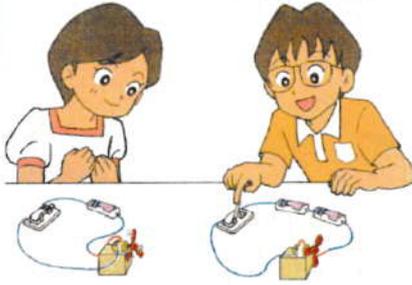
クルージング体験の他に、水産研究所の見学も大歓迎です。見学料、乗船料を別途お支払いください。

探究的な活動&ものづくり

例えば・・・4年生 ぼく・わたしのスーパーカーを走らせよう

乾電池の数やつなぎ方を変えると？(理科)

モーターとプロペラを使って実験



2時間で実施

速く走る電気自動車をつくろう(科学)

一番速い車を目指して実験



5時間で実施

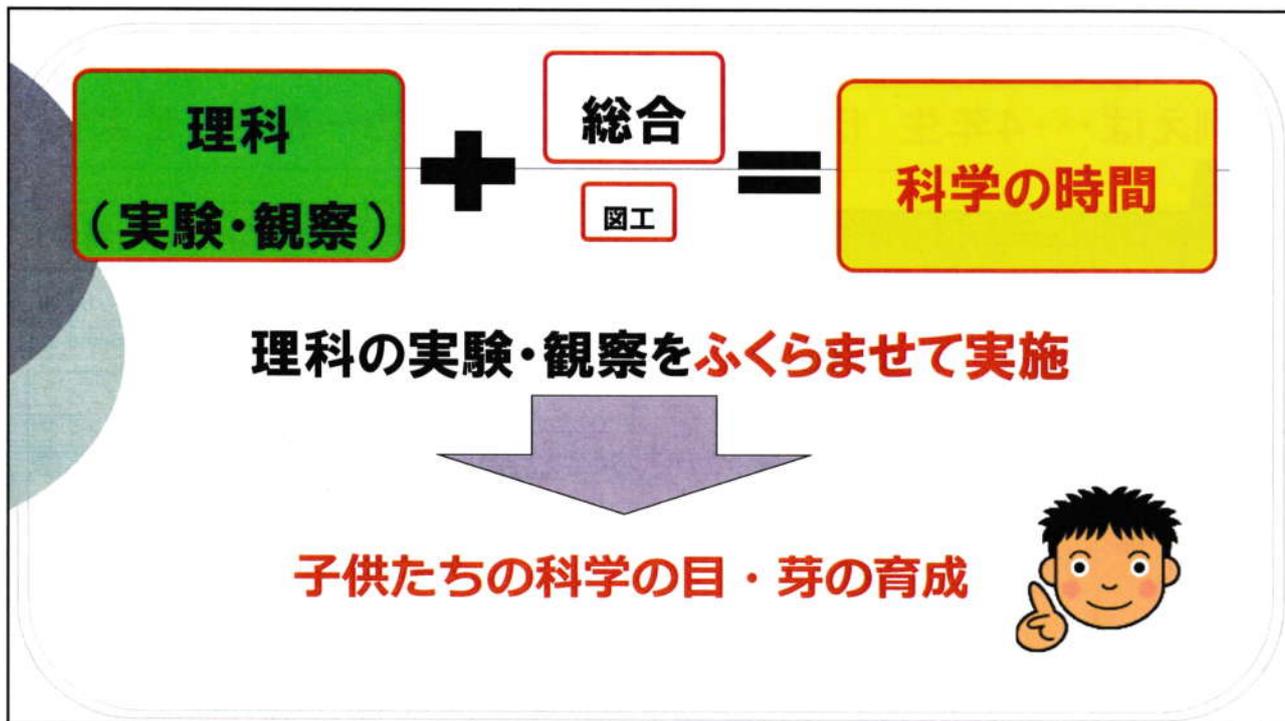
小中一貫のカリキュラム

小・中9年間を貫く
「4つの柱」

4つの柱を包括する
地域や人からの
学び・支援

地域や人からの学び・支援





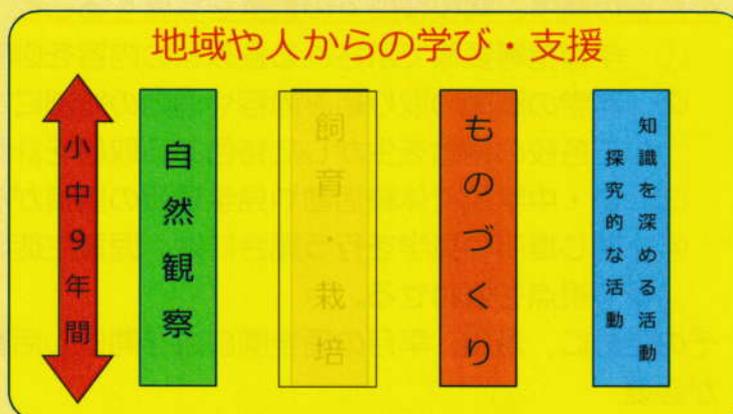
例えば・・・出前授業 「ホタルイカの解剖」、「プラ板の性質」



小中一貫のカリキュラム

小・中9年間を貫く
「4つの柱」

4つの柱を包括する
地域や人からの
学び・支援



計画・実施する上での留意点

◇ 各校の状況に応じた特色ある取組とする

- ① 「科学の時間」を小中一貫のカリキュラムのもとに進めるため、校種別共通学習単元を各校の年間指導計画に反映させる。
- ② 授業者は評価規準を意識しながら、活動を工夫しアレンジすることが望ましいが、負担となるような場合は、「科学の時間学習スタンダード集」の活用を勧める。
- ③ 取り組み内容やその他活動の細部については、各校の状況に応じ各校の創意を生かした特色ある取組を実践する（「科学の時間」の基本線を外れていなければ問題はない）。

計画・実施する上での留意点

◇活動の順序、異校種間での重複を考慮すること

- ① 学習指導要領で示される各教科の内容を必ず履修する。
- ② 科学の時間の取り組み内容や活動の細部については、各校の状況に応じて各校の創意を生かした特色ある取組を計画する。
- ③ 小・中学校で体験活動や見学場所の重複がなされないように考慮する。
- ④ 同じ場所の見学を行う場合には、児童生徒の発達段階に応じて活動内容や視点を違わせる。

そのために、滑川、早月の両学園部会を開催し活動内容の情報交換を行うことが必要

計画・実施する上での留意点

◇活動内容が適正であること

- ① 出前授業では、外部講師等との事前の打ち合わせを十分にとり「科学の時間」の趣旨を講師に理解していただくことが大切。
- ② 単発的な活動になり、他の活動や教科との関連性が不明確にならないように配慮する。
- ③ 児童生徒の力を超えた高度な内容であったり、学校が「科学の時間」として求めるものにそぐわない内容であったりしていないか、振り返りと改善を行う。

評価について



◇ 通知表・指導要録への記入

- ① 通知表・指導要録には、児童生徒の取組から文章記述する。
- ② 通知表は外国語が教科となる令和2年度に様式を変更するため、それまでは小学校は総合所見欄、中学校は別紙に記入し通知表に挟み込む形をとる。
- ③ 指導要録には、小学校は総合所見及び指導上参考となる諸事項の欄に記入し、中学校は学習の所見に記入する。
- ④ 中学校3年生での高校入試調査書には、「科学の時間」の評価はしない。

科学の時間の評価の観点及びその趣旨

【評価の観点及びその趣旨】

観点	科学に関する理解 観察・実験、ものづくりの技能	体験活動・探究活動における 思考・判断・表現	自然・科学・ものづくりに 対する態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や身の回りの事物・現象の原理や規則性等について理解している。 ・観察・実験や調査活動を適切な方法で実施している。 ・科学の原理や規則性を利用したものづくりにおいて、正しく安全に道具を使用し、能率よく作業を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動や探究活動を通して問題を見だし、問題解決の手順に沿って、観察・実験、調査し、その結果を考察して表現している。 ・活動に関わる他者の意見や考えを聞く中で、自分自身の考えをつくり上げていこうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に親しみ、身の回りの事物・現象に<u>進んで</u>関わり、それらを調べていこうとする。 ・<u>科学の時間で</u>学習した内容や<u>経験を基にして</u>、生活に生かそうとする。

時間割表への表記等について

- ① 小学校1、2年生は年間5時間なので時間割に表記しなくてもよい。
- ② 小学校3年生～中学校3年生は、年間35時間（週当たり1時間）なので、表記することができる。表記の仕方は学校によって工夫してもよい。
- ③ 校外学習や、ものづくりの学習などで数時間連続して実施したりまとめて指導したりすることもあり得る。
 (例) キラリン号クルーズ体験と水産研究所の学習に3時間要した場合「科学の時間」で3時間学習したこととする。

「科学の時間」の指導のための取組

◎「科学の時間」研修会(4月)

滑川市に初めて赴任した教員(悉皆)対象。「科学の時間」についての基本的な研修を行う。

◎滑川市ふるさと・ジオパーク研修会(6月)

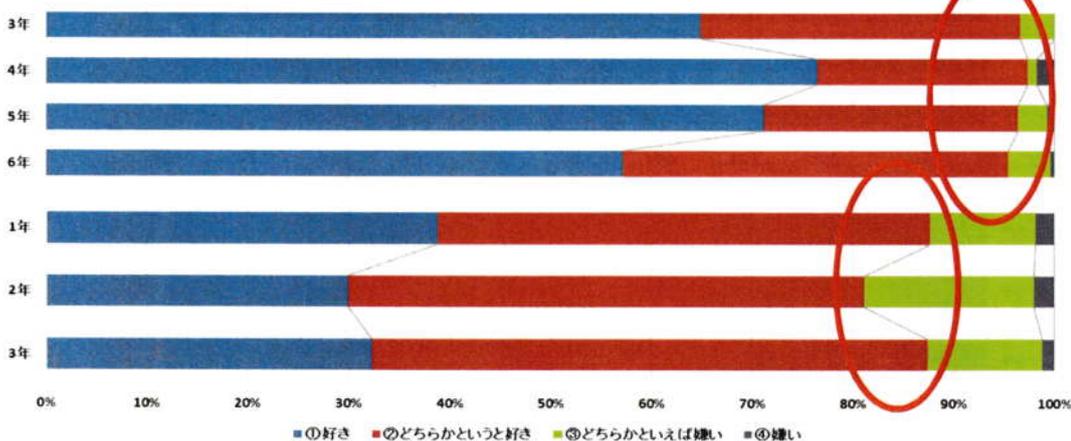
滑川市に初めて赴任した教員(悉皆)対象。市内の歴史・文化施設、ジオポイントを見学し、授業や校外学習に役立てる。

◎理科教材活用研修会(希望校開催)

- ・県総合教育センターの「理科実験・観察訪問研修」を活用した研修
- ・各校の要望に応じた理科備品・教材を使用した指導法についての研修

「科学の時間」アンケート結果(R3)

問1 科学の時間の勉強は好きですか。(問2 わけ 自由記述・別紙)



「科学の時間」アンケート結果(R3)

問4 「科学の時間」で行った観察や実験、ものづくりの中で興味や関心をもったものは何ですか。
R3 中学校

R3 小学校

	3年	4年	5年	6年	計
①観察	29.7%	42.6%	31.3%	23.7%	31.3%
②実験	60.4%	71.3%	76.2%	77.7%	71.5%
③ものづくり	69.6%	63.9%	63.7%	62.9%	65.0%
④出前授業、見学	14.7%	37.8%	58.7%	50.9%	40.9%
					208.7%

R2小学校

	3年	4年	5年	6年	計
①観察	38.6%	39.9%	31.8%	22.9%	33.1%
②実験	70.9%	77.9%	74.3%	81.0%	76.1%
③ものづくり	65.9%	67.2%	57.8%	67.1%	64.2%
④出前授業、見学	9.9%	49.1%	55.4%	36.8%	39.5%
					213.0%

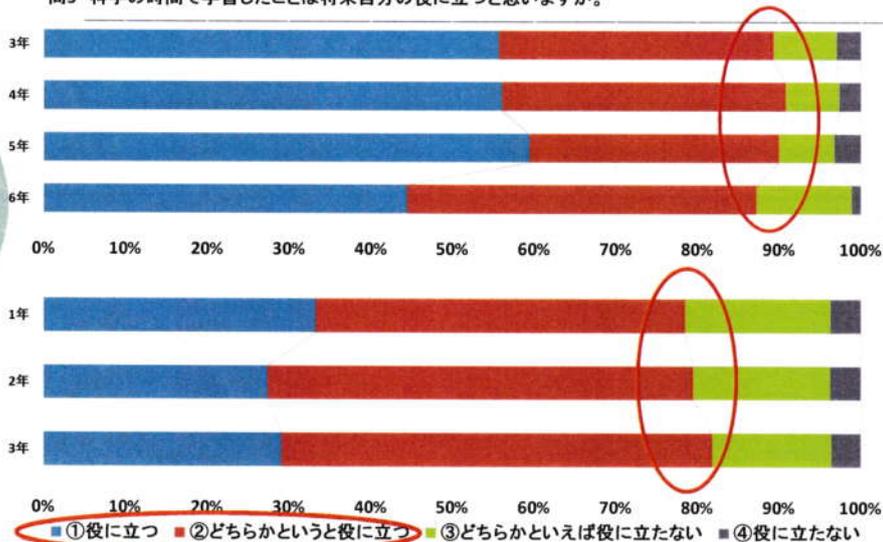
	1年	2年	3年	計
①観察	29.2%	22.1%	22.4%	24.4%
②実験	82.2%	82.0%	74.4%	79.4%
③ものづくり	52.5%	49.2%	61.0%	54.4%
④出前授業、見学、講演	30.1%	23.4%	39.0%	31.0%
⑤問題を探究する活動	16.9%	17.2%	24.0%	19.5%
				208.6%

R2中学校

	1年	2年	3年	計
①観察	13.6%	11.2%	14.8%	13.2%
②実験	65.1%	72.1%	66.4%	68.0%
③ものづくり	48.8%	51.4%	49.8%	50.1%
④出前授業、見学、講演	27.5%	37.0%	19.6%	28.1%
⑤問題を探究する活動	23.3%	20.7%	19.2%	21.0%
				180.2%

「科学の時間」アンケート結果(R3)

問5 科学の時間で学習したことは将来自分の役に立つと思いますか。



「科学の時間」アンケート結果(R3)

問2:問1 「科学の時間の勉強は好きですか」のわけを書いてください。」

①好き ②どちらかといえば好き ③どちらかといえば嫌い ④嫌い

- ①②ゴムゴムカーを改良したり、どうしたらゴムゴムカーを遠くまで走せられるかを考えたりするのが楽しかった。
- ①②私が1番楽しかったのは、虫の体はどうなっているか観察したり、私がまだ知らない実験をしたりできたから。
- ①いろんな言葉を知って意味も分かるし、私が調べた根の働きにも普段聞いたことない言葉がたくさんあったから好きになった。
- ②新しいことを分かりやすく教えてもらったり、一人で実験する時間があったりしてやりやすかった。
- ①特に植物の観察や、ゴムを使った実験の時間が楽しくて、疑問に思ったので調べたくなった。
- ①②知らないことを実験して分からないことを調べたり、みんなと一緒に話したり考えるのはとても楽しいから。
- ①②実験をしたり、調べたりして知らなかったことが分かるようになるから。
- ①②みんなと一緒に工夫したりして楽しいし、みんなと協力して話し合っって頑張るから。
- ①②実験や、プログラミング、昆虫などが、とても好きだからです。
- ①②たくさん考えて、どうしてそうなるのか理由が分かるから。
- ③④どうしてこうなったとか、考えるのが、苦手。

「科学の時間」の成果

- 児童生徒の身近な科学の話題やものづくりへの、**興味・関心の高まりやきっかけをつくる**ことができる。
- 他教科との横断的な学習内容にすることで、主体的に取り組むことのできる学習課題を設定でき、**生きて働く知識の獲得や技能の向上**につながる。
- ものづくりでは、友達の取組を参考にしながら**試行錯誤し、学び合いの場面を設定**することができる。
- 発展的な学習内容には、外部講師による出前授業を**うまく活用して、学習した内容をより深める**ことができる。

令和のとやま型教育推進事業について

趣旨

- ・求められる教育の理念の理解と具現化
(学習指導要領の確実な実施)
- ・実践共有による県全体の意識改革・教育の質の向上

実施方法

市町村教委を研究主体とし、県内15市町村による報告会を実施してHP上で公開する。

令和のとやま型教育推進事業について



本市の方向性

- ・基礎的読解力(読み解く力)・数学的思考力・情報活用能力等の育成
- ・道具としてのICT活用

義務教育9年間で全ての教科等に関わる基礎的・汎用的な能力である「**読み解く力**」を育成し、一層の学力向上を図る。その際、ICT機器を効果的に活用する。

令和のとやま型教育推進事業について



具体的な取組について

- ①児童生徒の「基礎的な読む力」を測るテストを活用した実態把握
- ②子供たちの読み解く力の実態から指導の弱点を把握
- ③授業つくりと教材開発
- ④小中学校9年間を通した指導計画の開発

子どもたちに求められる学力

知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等までを含めたものであり、これを個性を生かす教育の中ではぐくむことが肝要である。

(文科省HPより抜粋)



生きて働く知識及び技能に加え、学ぶ意欲や、自ら課題を見付け、学び、主体的に判断・行動し、問題を解決する「確かな学力」が……。

(市総合計画より抜粋)